

データを考慮した言葉づかいの分析 ー少年マンガと少女マンガを比べてみたー

西澤 萌希（早稲田大学日本語教育研究センター）[†]

An Analysis of Language Use Considering Text Genres: A Comparison of Shōnen Manga and Shōjo Manga

Moeki Nishizawa (Center for Japanese Language, Waseda University)

要旨

日本語の発話において、言葉づかいは特定の人物像と結びつく。その「ことばと人物像の結びつき」を研究して日本語話者の自己表現に活かすことを目指し、データ化を行っている。そこで本稿では、少年マンガデータと少女マンガデータを比較し、各データに見られる言葉づかいの特徴を分析する。そして、その結果を踏まえて「ことばと人物像の結びつき」研究における少年マンガ、少女マンガの言語資料としての見方を考え、今後の分析の手掛かりとする。

分析では、自称詞、終助詞、スタイル、音変化、ぞんざいな語彙に注目して各データを比較した。その結果を踏まえ、性差表現、ヴァーチャルな言葉づかい、描かれる場面の3つの観点から、少年マンガと少女マンガの言語資料としての見方を提案した。

1. はじめに：背景と目的

本稿では、少年マンガと少女マンガのセリフで使われている語彙情報を登録したデータを言語資源として、少年マンガデータと少女マンガデータそれぞれに見られる言葉づかいの特徴を大まかに分析する。それを踏まえて少年マンガ、少女マンガそれぞれの言語資料¹としての見方を提案する。

日本語の発話において、言葉づかいは特定の人物像と結びつく。極端な例を挙げれば、「わたくしは花子って言いますのよ」は《お嬢様》²と、「わしゃ、花子って言いますじゃ」は《老人》と結びつく。言葉づかいと結びつく人物像は話し手の人物像と等しく、したがって話し手は言葉づかいを工夫することで効果的に自己表現できるとされる。以上の考えのもと、日本語話者の効果的な自己表現に貢献すべく、「ことばと人物像の結びつき」を体系的に分析しようと取り組んでいる。

「ことばと人物像の結びつき」については、多くの研究がなされて成果が蓄積されてきた。特に「役割語」（金水 2003）³に関する研究が盛んである。その一方で、これまでの研究成

[†] nishizawa-moeki@aoni-waseda.jp

¹ 本稿において「言語資料」とは、マンガや小説などそのものを指す。それらを分析のためにデータ化したものを「言語資源」と呼ぶ。また、「少年マンガ」「少女マンガ」は本稿の分析に用いたものに限らず広く少年マンガや少女マンガという言語資料を、「少年マンガデータ」「少女マンガデータ」は本稿の分析に用いている言語資源を指す。

² 本稿では、人物像のラベルを《 》で表す。

³ 役割語は、次のように定義される。

ある特定の言葉づかい（語彙・語法・言い回し・イントネーション等）を聞くと特定の人物像（年齢、性別、職業、階層、時代、容姿・風貌、性格等）を思い浮かべることができるとき、あるいは

果の多くは、1つのジャンルの言語資料に限定して分析したものであり、複数のジャンルにまたがって分析したものは限られている。言語資料のジャンルによっては、言葉づかいにバイアスがかかり、「ことばと人物像の結びつき」の分析にも影響を与えると予想される。例えば、少年マンガでは戦闘場面が多くぞんざいな表現が使われやすい、少女マンガでは高校生など若い人物が多く若者ことばが使われやすい、といったことは容易に想像できる。特定のジャンルならではの部分とジャンルを問わず一般化できる部分とを理解し混同させない分析や考察が、研究の成果を日本語話者の自己表現に活用していく上で重要だと考える⁴。

以上を踏まえて筆者は、西澤（2025b）にて「ことばと人物像の結びつき」分析ためにデータ化した少年マンガと現代小説のデータを比較し、それぞれに見られる言葉づかいの特徴を分析した。それにより、ジャンルによって分析可能な言葉づかいに偏りがあることが示唆された。本稿では、西澤（2025b）で分析に用いた少年マンガデータに加えて、新たにデータ化した少女マンガデータを言語資源として比較する。そして、双方における言葉づかいの特徴を概略的に分析する。それによって「ことばと人物像の結びつき」研究における少年マンガ、少女マンガそれぞれの言語資料としての見方を考え、今後の研究の手掛かりとする。

2. データの概要：分析対象とデータ化の方法

2.1 分析対象

少年マンガデータには集英社が発行する少年マンガ誌『週刊少年ジャンプ』の2020年1～10号（そのうち4・5号、6・7号は合併号のため、計8号）に収録された作品を使用する。作品名、作者、掲載号は表1の通りである。また、少女マンガデータには、表2に示した9作品（それぞれ第1～5巻）を使用する。少女マンガデータの作品は、①少女マンガ雑誌に連載されたもの、②5巻以上出版されたもの（量的分析の観点）、③2000年以降に出版されたもの（現代日本語の分析という観点）、④映像化されたもの（大衆性の観点）という4つの条件をすべて満たすものを選定した。

表1 少年マンガデータの作品一覧

作品名	作者	掲載号
アクタージュ act-age	マツキタツヤ・宇佐崎しろ	1～10
AGRAVITY BOYS	中村充志	2～10
アンデッド アンラック	戸塚慶文	8～10
鬼滅の刃	吾峠呼世晴	1～10
サムライ8 八丸伝	岸本斉史・大久保彰	1～10
ZIPMAN!!	芝田優作	1～10
呪術廻戦	芥見下々	1～10
チェンソーマン	藤本タツキ	1～10

ある特定の人物像を呈示されると、その人物がいかにも使用しそうな言葉づかいを思い浮かべることができるとき、その言葉づかいを「役割語」と呼ぶ。

（金水 2003：205）

⁴ 本稿は、1つのジャンルの言語資料を分析する研究を批判しようという意図ではない。これまでの「ことばと人物像の結びつき」研究には、純粋に特定のジャンルにおける表現的特徴を分析しようというものも多くある。

トーキョー忍スクワッド	田中勇輝・松浦健人	1～2
Dr. STONE	稲垣理一郎・Boichi	1～4・5、8～10
Dr. STONE reboot: 百夜	Boichi	1～4・5
ハイキュー！！	古舘春一	1～10
ビーストチルドレン	寺坂研人	1
ブラッククローバー	田畠裕基	1～10
ぼくたちは勉強ができない	筒井大志	1～10
僕のヒーローアカデミア	堀越耕平	1～10
魔女の守人	坂野旭	10
マッシュル -MASHLE-	甲本一	9～10
ミタマセキュ霊ティ	鳩胸つるん	1～10
約束のネバーランド	白井カイウ・出水ぽすか	2～9
ゆらぎ荘の幽奈さん	ミウラタダヒロ	1～10
夜桜さんちの大作戦	権平ひつじ	1～10
ONE PIECE	尾田栄一郎	1、3～10

表2 少女マンガデータの作品一覧

作品名	作者	出版社	出版年 ⁵
海街 diary	吉田秋生	小学館	2007～2012
俺物語！！	アルコ・河原和音	集英社	2012～2014
orange	高野莓	双葉社	2013～2015
君に届け	椎名軽穂	集英社	2006～2007
ストロボ・エッジ	咲坂伊緒	集英社	2007～2009
虹色デイズ	水野美波	集英社	2012～2014
初めて恋をした日に読む話	持田あき	集英社	2016～2018
ハニーレモンソーダ	村田真優	集英社	2016～2017
ミステリと言う勿れ	田村由美	小学館	2018～2019

2.2 データ化の方法

データ化は、西澤（2025b）と同様の方法で行った。データ化の狙いや詳細な方法については西澤（2025b）を参照されたい。本稿では、分析の前提として必要な範囲でデータ化の方法を説明する。

Excel の「テーブル」機能を使用し、言語資料中のセリフを発話文単位で記録した。そして、各発話文について、収録されている言語資料の情報（タイトル、巻数）、話し手の情報（名前、性別）を、図1のように登録した。

次に、言葉づかいの特徴が分析できるようにデータの処理を行った。金水（2003）によると、役割語は人称詞や文末表現、丁寧表現、なまり、感動詞、笑い声など、さまざまな要素から構成され、それらがひとまとまりの言葉づかいとなって特定の人物像と結びつく。そのことを踏まえ、各発話文で使用されている語彙要素を図2のように登録した。語彙要素は自称詞、対称詞、スタイル（丁寧体、非丁寧体など）、終助詞、音変化、ぞんざいな語彙、間投助詞、感動詞、笑いを登録した。

⁵ 表2の出版年は、各作品の第1巻が発行された年から第5巻が発行された年である。

そして、以上のデータに「ピポットテーブル」を挿入した。それにより、テーブルに登録した発話文全体でどの語彙要素がどの程度使われているのか、量的に見ることが可能となった。図3は、少女マンガデータで自称詞に「ボク」「オレ」が使われた発話文の数を、スタイル（丁寧体、非丁寧体、ス体）別に示したピポットテーブルである。

以上のように構築した少年マンガデータと少女マンガデータを用いて、次節以降で各データの特徴的な言葉づかいについて大まかな分析を行う。量的な分析はピポットテーブルを使い、元の発話文に立ち返った質的な分析はテーブルを使って行う。

作品名	巻	話	ID	話し手	性別	セリフ
ミステリと言う勿れ	2	4.1	97	汐路	女	大丈夫 わたしわりと裕福だから
ミステリと言う勿れ	2	4.1	98	汐路	女	あ わたし 名前 かりあつまりしおじ
ミステリと言う勿れ	2	4.1	99	整	男	話の字がついてる...
ミステリと言う勿れ	2	4.1	100	整	男	我話くんと一緒...
ミステリと言う勿れ	2	4.1	101	整	男	名前に話の字がついてるのって 親御さんの強い思いを感じる...

言語資料情報

話し手情報

発話文

図1 少女マンガデータの一部（言語資料情報、話し手情報、発話文）

セリフ	自称詞	対称詞	スタイル	文末の品詞	コピュラ	終助詞	疑問	目変化
大丈夫 わたしわりと裕福だから	ワタシ		NP	Na-adj				
あ わたし 名前 かりあつまりしおじ	ワタシ		NP	N				
話の字がついてる...			NP	V				ている：でる
我話くんと一緒...			NP	N				
名前に話の字がついてるのって 親御さんの強い思いを感じる			NP	V				ている：でる

発話文

語彙要素

図2 少女マンガデータの一部（発話文、語彙要素）

性別	男						
個数 / セリフ	列ラベル						
行ラベル	NM	NP	P	S (空白)	総計		
オレ	270	1162	49	4	104	1589	
ボク	53	104	221		7	385	
総計	323	1266	270	4	111	1974	

▼ フィルター

作品名

話し手特定不可

考察用

性別

■ 列

スタイル

≡ 行

自称詞

Σ 値

個数 / セリフ

図3 少女マンガデータの量的な分析画面の例（Excelのピポットテーブル）

3. 分析：少年マンガと少女マンガの言葉づかいの比較

本節では、少年マンガデータと少女マンガデータを概略的に分析する。そして、言葉づかいについて両データを比べながら大まかな特徴を示す。

語彙要素ごとに言葉づかいの特徴を分析する前に、両データの全体像を概観する。全発話文数は、少年マンガデータが14158発話、少女マンガデータが49870発話であった。ただし、それらには「部下」や「クラスメイト」など、個人を特定できない話し手（いわゆる「モブ」「その他大勢」と呼ばれる話し手）の発話文も含まれている。「ことばと人物像の結びつ

き」研究においては、個人を特定できる話し手の発話に注目することが多いと思われる。本稿は今後の「ことばと人物像の結びつき」研究への手掛かりとするものであるため、以下では個人が特定可能な話し手に限定して分析する。

ピポットテーブルで特定可能な話し手に限定し、話し手数や発話文数、1人あたりの発話文数を集計した。また、話し手の性別は言葉づかいへの影響が大きいと思われるため、男女別でも集計した。以上の結果は表3のように示された。なお、表中の（ ）内の割合について、例えば少年マンガデータの「話し手数」の女性の割合（29.85%）は、同データの全話し手数 529 人に占める女性の話し手数 157 人の割合である。

表3 特定可能な話し手の数とその発話文数

	少年マンガデータ	少女マンガデータ
話し手数	529 人 (100.00%)	286 人 (100.00%)
うち女性 (割合)	157 人 (29.85%)	131 人 (45.80%)
うち男性 (割合)	354 人 (67.30%)	150 人 (52.45%)
うち性別不明 (割合)	15 人 (2.85%)	5 人 (1.75%)
発話文数	12520 発話 (100.00%)	43378 発話 (100.00%)
うち女性 (割合)	3226 発話 (25.77%)	19686 発話 (45.38%)
うち男性 (割合)	9148 発話 (73.07%)	23681 発話 (54.59%)
うち性別不明 (割合)	146 発話 (1.17%)	11 発話 (0.03%)
1人あたりの発話文数	23.80 発話	151.67 発話
女性	20.55 発話	150.27 発話
男性	25.84 発話	157.87 発話
性別不明	9.73 発話	2.20 発話

表3から、話し手数は少年マンガデータが少女マンガデータの1.85倍ほどである。しかし、発話文数に関しては少女マンガのほうが少年マンガの3.46倍ほど多い。そのため、1人あたりの発話文数も、少女マンガデータのほうが6.37倍ほど多くなっている。したがって、データの性質として、少女マンガデータでは同一の話し手による発話文が多く分析できるということがわかる。これは、作品ごとのデータ量の違いによるところのほか、少年マンガデータでは戦闘場面などセリフを必要としない描写が比較的多いのと比べ、少女マンガデータは登場人物同士の日常的なやりとりが多く描かれることによると思われる。

その他の両データの相違点として、分析可能な発話文数の男女差が挙げられる。少年マンガデータでは、話し手数、発話文数ともに男性に偏りがちである（表3太字）。そのことから、少年マンガデータでは、女性の発話文の量、バリエーションともに男性ほど十分には見られない。少年マンガで女性の言葉づかいを分析する場合、その結果が女性の言葉づかいの全体像をどの程度表すのか、より深く考慮すべきだと思われる。一方、少女マンガデータは男性の話し手や発話文がやや多いものの、男女の偏りはほとんどないと言える（表3網かけ）。1人あたりの発話文数でも大きな男女差はない。

以上、少年マンガデータと少女マンガデータの全体像を大まかに見た。そして、次の点で両データは異なることがわかった。

相違点① 少年マンガデータでは話し手が男性に偏っており、発話文も男性のものが多。一方、少女マンガデータではそのような男女の偏りがほぼない。

次に、各語彙要素の使用に注目して両データに見られる言葉づかいの特徴を分析する。本稿では自称詞、終助詞、スタイル、音変化、ぞんざいな語彙に注目して分析する。

3.1 自称詞

各自称詞が使用された発話文数を集計した。両データで共通して見られた自称詞の発話

文数を示したのが表 4 である。「使用率」は、各データ各性別の全発話文数に占める、各自称詞を使った発話文数の割合である。例えば、少年マンガデータの女性の「アタシ」は 47 発話で見られ、これは同データの女性の全 3226 発話のうち 1.46% である。以下、本稿における「使用率」は同様に求めたものを指す。なお、「私」はルビがなければ「ワタシ」としてカウントされている。「定記述」とは、「お母さん」「先生」などのように普通名詞を人称詞として使うことを指す（田窪 1997）。「名前」は苗字ではなく、いわゆる「下の名前」である。

表 4 各自称詞の発話文数と使用率（枠内上：発話文数、下：使用率（%））

		アタシ	ウチ	オレ	ボク	ワシ	ワタクシ	ワタシ	定記述	名前
少年 マンガ データ 全 12520 発話	女性	47	3	0	0	14	1	231	5	11
		1.46	0.09	0.00	0.00	0.43	0.03	7.16	0.15	0.34
	男性	0	3	561	163	29	2	108	14	2
		0.00	0.01	6.13	1.78	0.32	0.02	1.18	0.15	0.02
	不明	0	0	7	0	0	0	4	0	0
		0.00	0.00	4.79	0.00	0.00	0.00	2.74	0.00	0.00
少女 マンガ データ 全 43378 発話	女性	473	194	0	0	1	3	894	23	22
		2.40	0.99	0.00	0.00	0.01	0.02	4.54	0.12	0.11
	男性	0	0	1589	385	25	6	33	30	0
		0.00	0.00	6.71	1.63	0.11	0.03	0.14	0.13	0.00
	不明	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	総計	473	194	1589	385	26	9	927	53	22
		1.09	0.45	3.66	0.89	0.06	0.02	2.14	0.12	0.05

表 4 の総計を見ると、両データとも、「アタシ」「オレ」「ボク」「ワタシ」の使用が比較的多いことがわかる。男女別にみると、両データとも、女性は「ワタシ」「アタシ」の順に多く使用し、男性は「オレ」「ボク」の順に多く使用している点で共通する（表 4 太字）。

一方で、少女マンガデータでは女性による「ウチ」の使用が 3 番目に多いのに対し、少年マンガデータではむしろ少ない点で、両データは異なる（表 4 網かけ）。少年マンガデータで女性の「ウチ」は 3 発話で見られ、2 人に使用されていた。(1)はその例である。「せやけど」のように関西弁が使われている。少年マンガデータでは男性による「ウチ」の使用もあった。(2)はその男性「酌人」によるもので、女装している場面での発話である。「酌人」は他の場面では「ボク」で自称している人物であり、「ウチ」は女装している状態を表していると思われる。(2)でも「くれへん」のように関西弁が使われている。(1)(2)のように、少年マンガデータにおける「ウチ」は関西弁話者の自称詞として使われる傾向にある。

(1) うらら：せやけど…コレや！ ウチが求めとったんは この機能や！

(ミウラタダヒロ「ゆらぎ荘の幽奈さん」2 号) ⁶

⁶ 本稿で少年マンガデータや少女マンガデータの発話文を例示する際、「話し手：セリフ」の形で示す。また、引用元は、少年マンガでは「作者「作品名」号」で示す。少女マンガでは「作者「作品名」巻」で示す。なお、例文中の下線は筆者による。

(2) 酌人：ほんなら兵藤くうん キミが決めてくれへえん？ (中略) ほら ウチにい！
(ミウラタダヒロ「ゆらぎ荘の幽奈さん」9号)

田中(2011)は、本物の方言話者ではない話し手に使用される方言を「ヴァーチャル方言」と呼んでいる。ヴァーチャル方言には2つの用法があるとされ、1つは特定の地域と結びつく「地域用法」、もう1つは地域性を後退させてその方言話者らしさと結びつく「キャラ用法」である。(1)の「うらら」は関西出身という設定ではなかった。つまり、キャラ用法のヴァーチャル方言である。また、(2)の「酌人」は西日本の妖怪を束ねる一族という設定であり西日本出身であることが予想されるが、「ウチ」が普段から使われる自称詞ではなく女装した状態を表して使われていることから、「酌人」の「ウチ」もキャラ用法である。このように、少年マンガデータにおける「ウチ」はキャラ用法の方言話者によって使用されていた。

金水(2003: 67)では、「ある話者(文体)が、特徴的な話し手を想定させる度合い」として「役割語度」が導入されている。方言は標準語と比べて役割語度が高いとされている。田中(2011)によると、キャラ用法は地域用法が役割語化したヴァーチャル方言である。したがって、ヴァーチャル方言の中でも特に役割語度が高いと考えられる。したがって、少年マンガデータにおける「ウチ」は役割語度が高い自称詞である。

では、少女マンガデータではどうか。少女マンガデータでは女性のみが「ウチ」を使用していた。(3)(4)はそのうち2名の発話である。ともに標準語が使用されている。その他の「ウチ」が使用された発話も、すべて標準語が使用されていた。

(3) 大和：うちの得意な順でいったら 次はザッハトルテなんだけど どうか？
(アルコ・河原和音「俺物語！！」1巻)

(4) あずさ：菜穂がドカンとヒット打ったら ウチら優勝だよー！！
(高野莓「orange」1巻)

現実場面でも、関西弁以外で「ウチ」が使用されている。大和田(2010)は神奈川県の大學生の自称詞使用実態を調査している。そして、女性の傾向として「ウチ」を使用する「ウチ使用型」が認められ、それに当てはまるかどうかには出身地や居住地による差は見出されないと述べている。また、小嶋(2017)も愛知県の女子大學生の自称詞使用実態を調査し、「ウチ」の使用が2001年から2011年で約8倍になっていると報告している。以上のように、現実場面では、「ウチ」の使用が関西弁かどうかには拘らず日常化しているということである。(3)(4)のように、少女マンガデータにおいても同様だと思われる。

「ウチ」以外にも、両データには異なる点がある。それは、男性による「ワタシ」の使用である。表4で男性による「ワタシ」の発話文数に注目すると、両データとも「オレ」「ボク」に次いで3番目に多い点は共通しているが、少女マンガデータでは「ボク」との差が大きく、4番目に多い「定記述」との差がほとんどない(表4白字)。つまり、少年マンガデータでは「オレ」「ボク」「ワタシ」が男性によく使用されると言えそうなのに対し、少女マンガデータでは「オレ」「ボク」がよく使用され「ワタシ」は決して多いとは言えない。さらに、各データにおいて「ワタシ」が使われた発話文数のうち男性に使われた割合を求めると、少年マンガは31.49%(343発話中108発話)、少女マンガは3.56%(927発話中33発話)であった。表3に示したように、少年マンガデータでは男性の話し手が全体的に多く、少女マンガデータは男女のバランスがある程度とれていたことを鑑みると、やはり少年マンガデータのほうが男性による「ワタシ」使用が多いと言えそうである。

表5は、「ワタシ」が使用された発話文数をスタイル別に集計したものである。なお、本稿におけるスタイルは主に文末に注目したもので、非丁寧体、丁寧体、ス体に分けられる。

ス体は「～っす」のようなスタイルを指す（中村 2020）。言いさし文や他者に割り込まれた発話など、文末からスタイルの判別が困難なものは、「判別不可」として示す。

表 5 「ワタシ」が使用された発話文のスタイル

		非丁寧体	丁寧体	ス体	判別不可	総計
少年 マンガ データ	女性	111	76	1	39	231
	男性	84	13	0	11	108
	不明	1	1	0	2	4
	総計	196	90	1	52	343
少女 マンガ データ	女性	561	128	0	175	894
	男性	12	16	0	5	33
	不明	0	0	0	0	0
	総計	573	144	0	180	927

表 5 を見ると、男性の「ワタシ」について、少年マンガデータでは多くが非丁寧体で使われている一方で、少女マンガデータでは非丁寧体と丁寧体で同程度に使われている（表 5 網かけ）。少女マンガデータにおいて非丁寧体で「ワタシ」が使われた 12 発話を見ると、そのうち 9 発話は(5)のように「奈良崎」の発話文であった。つまり、「奈良崎」を除けば、少女マンガデータの男性は丁寧体で「ワタシ」が使う傾向にあると言える。

(5) 奈良崎：わたしを誰だと思ってる 奈良崎幸仁だ 大手保険会社で重役まで登りつめた男だぞ

（田村由美「ミステリと言う勿れ」1 巻）

金水（2023）によると、フィクションにおける「ワタシ」は、女性には多様な場面で使用される一方で、男性には親しくない相手や目上に向かって、あるいは公的な場や緊張を強いられる場面で使用されるという。その男性が「ワタシ」を使う場面は、丁寧体の使用が期待される場面と言える。つまり、少女マンガデータの男性は金水（2023）の主張通りに「ワタシ」を使用していることになる。一方で、少年マンガデータの男性による「ワタシ」は丁寧体を使う場面だけでなく、非丁寧体を使う際にも用いられている。これは、金水（2023）が述べた女性による「ワタシ」使用の傾向にあたる。つまり、少年マンガデータの男性は、多様な場面で一貫して「ワタシ」を使う傾向にあると言える。

西澤（2025a）は、フィクションで自称詞として「ワタシ」を常用する男性の言葉づかいを分析している。そして、男性による「ワタシ」の常用は聞き手や受け手にとって自己同一化がしにくい自称詞使用であり、役割語度が高い言葉づかいだと分析している。したがって、少年マンガデータにおける男性の「ワタシ」は、役割語度が高いと思われる。

以上の「ウチ」「ワタシ」の他にも、少年マンガデータでは役割語度が高い自称詞使用が見られた。特に(6)は、少女マンガデータには見られなかったものである。

(6) 少年マンガデータのみで見られた自称詞（発話文数、話し手数）

セッシャ（5 発話、1 人）、ヨ（3 発話、1 人）、ワイ（2 発話、1 人）、
ワタス（2 発話、1 人）、ワラワ（18 発話、2 人）、ワレ（79 発話、25 人）、
名前くん（2 発話、1 人）

(6)には、方言に類する自称詞として「ワイ」「ワタス」が見られる。「ワイ」は(7)のように関西弁として使われていたが、話し手に関西出身という設定はなかった。つまり、キャラ用法のヴァーチャル方言で、役割語度が高い。

(7) ベーブ：いかにも ワイがベーブや

(鳩胸つるん「ミタマセキュ霊ティ」4・5号)

その他「ワタス」「セッシャ」「ヨ」「ワラワ」は《田舎者》や《侍》、《忍者》、《貴族》などに結びつく。金水(2003)によると、役割語度は公的な話しことばとしての標準語が低く、男性語や女性語はそれよりも高く、老人語などになればさらに高いとされる。それを踏まえると、「ワタス」「セッシャ」「ヨ」「ワラワ」は役割語度が高い自称詞使用である。

以上、自称詞に注目して両データの言葉づかいの特徴を分析した。そして、次の共通点と相違点がわかった。

共通点① 両データとも、女性の「ワタシ」「アタシ」、男性の「オレ」「ボク」が比較的よく使用されている。

相違点② 少年マンガデータでは、少女マンガデータよりも役割語度の高い自称詞が使用されている。

3. 2 終助詞

女性と男性それぞれがよく使う自称詞があったように、終助詞もまた女性語とされているものがある。そのような終助詞の中でも、いずれかのデータで見られたものの発話文数と使用率を示したものが表6である。なお、「わ」は関西弁の発話文を除いた値を示している。

表6 女性語とされる終助詞の発話文数と使用率(枠内上：発話文数、下：使用率(%))

		かしら	こと	て	のよ	もの	わ	総計
少年 マンガ データ 全 12520 発話	女性	6	1	1	22	2	63	95
		0.19	0.03	0.03	0.68	0.06	1.95	2.94
	男性	0	0	0	10	1	21	32
		0.00	0.00	0.00	0.11	0.01	0.23	0.35
	不明	0	0	0	0	0	0	0
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	総計	6	1	1	32	3	84	127
		0.05	0.01	0.01	0.26	0.02	0.67	1.01
少女 マンガ データ 全 43378 発話	女性	31	0	0	240	29	407	707
		0.16	0.00	0.00	1.22	0.15	2.07	3.59
	男性	0	0	0	6	2	161	269
		0.00	0.00	0.00	0.03	0.01	0.68	0.71
	不明	0	0	0	0	0	0	0
		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	総計	31	0	0	246	31	568	876
		0.07	0.00	0.00	0.57	0.07	1.31	2.02

表6を見ると、男性、女性ともに少女マンガデータのほうが少年マンガデータよりも若干使用率が高いものの、ほとんど差はない。また、両データともに女性のほうが男性よりも使用率が高い。文末表現において女性語は衰退しており、今後男女差がなくなっていくと言われている(渡邊 2016)。確かに「わ」などは男性による使用も一定数見られるが、全体的には女性語とされる終助詞は依然として女性によって使用される傾向にあると言える。

表6の終助詞のうち、「こと」「て」の2項目は少年マンガデータのみで1発話ずつ見られ

た。(8)(9)がその例である。いずれも「お嬢様ことば」とされる(金水編 2014)。

(8) 殺香：ままごと料理でたぶらかそうなんて 泥棒猫らしいやり方だこと

(権平ひつじ「夜桜さんちの大作戦」1号)

(9) レッグ：ファウルで粘って体力削られるのは ピッチャーの方じゃなくて？

(鳩胸つるん「ミタマセキュ霊ティ」6・7号)

「お嬢様ことば」のように、「文末に一定の形式の要素を付加することによって、話し手のキャラクターを端的に表現するもの」は、「キャラ語尾」と呼ばれる(金水 2021: 8)。キャラ語尾は両データともに見られ、使用率は少年マンガデータで 0.96% (120 発話)、少女マンガデータで 0.37% (159 発話) であった。

特に少年マンガデータには少女マンガデータで見られない特有のキャラ語尾もあった。一方、少女マンガデータに特有のキャラ語尾はなかった。少年マンガデータのみで見られたキャラ語尾は「こと」「て」の他に、(10)~(14)である。なお、(10)(11)はキャラ用法のヴァーチャル方言だが、特定の方言話者らしさを想定させるため、キャラ語尾にあたる。また、(12)の「じゃんか」は特定の話し手「ジャンカ」にほとんど常に語尾として使用されたものであり、文法的に不適格な箇所でも使用される点で、通常の終助詞「じゃん」とは異なる。

(10) ネコママシ：おでん様は絶対この船に乗る思うて 船内に隠れちよったがぜよ

(尾田栄一郎「ONE PIECE」1号)

(11) 不和：やけど そのおかげで 私ら成長できたっちゃん

(堀越耕平「僕のヒーローアカデミア」3号)

(12) ジャンカ：ほら あいつら全員まとめてぶっ飛ばして来いじゃんか

(鳩胸つるん「ミタマセキュ霊ティ」10号)

(13) 希乃子：^{ヴィラン}敵 連合って 雄英を狙ってたノコ？

(堀越耕平「僕のヒーローアカデミア」10号)

(14) 陽：マジモンの世界最強武器 石化装置 獲ったどー！！

(稲垣理一郎・Boichi「Dr. STONE」2号)

キャラ語尾は特定の話し手を想定させ、役割語度が高い。つまり、少年マンガデータには、少女マンガデータよりも役割語度の高い終助詞のバリエーションが多いということである。

以上、終助詞に注目して両データの言葉づかいの特徴を分析した。そして、次の共通点と相違点がわかった。

共通点② 両データで女性語とされる終助詞の使用率はほとんど変わらない。

相違点③ 少年マンガデータでは、少女マンガデータよりも役割語度の高い終助詞のバリエーションが多く見られる。

3. 3 スタイル

言いさし文や他者に割り込まれた発話などのスタイルの判別が困難な発話文を除き、スタイル別の発話文数を集計すると、表 7 のように示された。左端の数値はすべての発話文数のうちスタイルの判別が困難なものを除いた総数である。また、「割合」は、例えば少年マンガデータの女性なら、スタイルの判別が可能な全 2553 発話に占める各スタイルの割合である。

表 7 から、両データとも 8 割以上が非丁寧体であり、丁寧体は 1 割程度である。丁寧体が必要とされるような場面の描写が、少年マンガデータ、少女マンガデータともに少ないということである。

表 7 スタイルごとの発話文数と割合（枠内上：発話文数、下：割合（%））

		非丁寧体	丁寧体	ス体	スタイルの判別が可能な発話文の総数
少年 マンガ データ 全12520 発話	女性	1685	551	17	2253
		74.79	24.46	0.75	100.00
	男性	6103	491	38	6632
		92.02	7.40	0.57	100.00
	不明	112	12	0.	124
		90.32	9.68	0.00	100.00
	総計	7900	1054	55	9009
		87.69	11.70	0.61	100.00
少女 マンガ データ 全43378 発話	女性	12645	1656	21	14322
		88.29	11.56	0.15	100.00
	男性	15569	2473	76	18118
		85.93	13.65	0.42	100.00
	不明	5	4	0	9
		55.56	44.44	0.00	100.00
	総計	28219	4133	97	32449
		86.96	12.74	0.30	100.00

相違点に注目すると、丁寧体使用の男女差が挙げられる（表 7 網かけ）。少年マンガデータでは、丁寧体の割合が女性で 24.46%、男性で 7.40%であり、男性よりも女性に丁寧体が使用される傾向にある。一方で、少女マンガデータでは、女性で 11.56%、男性で 13.65%であり、ほとんど差はない。

以上、スタイルに注目して両データの言葉づかいの特徴を分析した。そして、次の共通点と相違点がわかった。

共通点③ 両データとも、8 割以上の使用率で、同程度に非丁寧体が使われている。

相違点④ 少年マンガデータでは、男性より女性のほうが丁寧体の割合が高い。少女マンガデータでは、男女で同程度に丁寧体が使用されている。

3. 4 音変化

音変化とは、「ない」を「ねえ」と言うように、規範とは異なる音での発話を指す。各データで音変化が使用された発話文数を集計したところ、表 8 のように示された。

表 8 音変化の発話文数と使用率（%）

		発話文数	使用率
少年マンガ データ	女性	515	15.96
	男性	1943	21.24
	不明	11	7.53
全12520 発話	総計	2463	19.72
少女マンガ データ	女性	4803	24.40
	男性	7181	30.32
	不明	1	9.09
全43378 発話	総計	11985	27.63

表 8 を見ると、少女マンガデータのほうがやや使用率が高く（表 8 網かけ）、両データともに男性のほうが女性よりもやや使用率が高い（表 8 太字）。筆者はすべての日本語は人物像と結びつくという立場で、日常的によく使用されと思われる音変化（例えば「～ている」の縮約「てる」）も音変化として登録している。そこで、日常的な音変化とそれ以外を分けて集計した。本稿で日常的な音変化と判断したものは、(15)の通りである。集計した発話文数と使用率は表 9 の通りである。

(15) 日常的な音変化として判断したもの（例文中の下線が音変化の部分）

～こ	→	～っ	例：ど <u>っ</u> か行って。
～の	→	～ん	例：君の大切なも <u>ん</u> は何？
～れ	→	～ん	例：ど <u>ん</u> だけ走るんだ！？
I-adj い	→	I-adj φ	例：え、す <u>ご</u> ！
V ら	→	V ん	例：意味わか <u>ん</u> ない。
V る	→	V ん	例：今から何す <u>ん</u> の？
ければ	→	きゃ	例：行かな <u>きゃ</u> いけない。
っ	→	φ	例：だから、知らない <u>て</u> ば。
させて	→	さして	例：私にやら <u>して</u> 。
ていう	→	て	例： <u>て</u> か、今日カラオケ行かない？
ていく	→	てく	例：これ、持 <u>っ</u> てく <u>ね</u> 。
ている	→	てる	例：窓が開い <u>て</u> る。
ておいで	→	といで	例：ほら、行 <u>っ</u> とい <u>で</u> 。
ておく	→	とく	例：ここに置いとく <u>よ</u> 。
てしまう	→	ちゃう	例：つい買 <u>っ</u> ちゃう <u>んだ</u> 。
られる	→	れる	例：あの映画、どこで見れる？
ー	→	φ	例：すご <u>い</u> だ <u>ろ</u> ？
ー	→	っ	例：わー、お <u>っ</u> きいケーキ！

表 9 日常的な音変化とそれ以外の音変化の発話文数と使用率（％）

		日常的な音変化		日常的でない音変化	
		発話文数	使用率	発話文数	使用率
少年マンガデータ	女性	427	13.24	88	2.73
	男性	1186	12.96	757	8.28
全 12520 発話	不明	10	6.85	1	0.68
	総計	1623	12.96	846	6.76
少女マンガデータ	女性	4328	21.99	475	2.41
	男性	5364	22.65	1817	7.67
全 43378 発話	不明	0	0.00	1	9.09
	総計	9692	22.34	2293	5.29

表 9 を見ると、日常的な音変化は、少女マンガデータのほうがよく使用される傾向にある（表 9 網かけ）。日常的でない音変化の使用率には、両データで大きな差は見られない。つまり、表 8 で少女マンガデータのほうが音変化の使用率が高かったのは、日常的な音変化の使用が少女マンガデータに多いためである。日常的な音変化としたものは現実場面でも私

的な場や親しい間柄などで使うことのできるものである。

男女差に注目すると、日常的な音変化は両データとも、男女で同程度の使用率である。一方、日常的でない音変化は両データとも、女性よりも男性の使用率のほうが高い（表 9 太字）。では、具体的にどのような音変化がよく使用されているのか。日常的でない音変化のうち、各データで使用率が高かったものを 10 項目ずつ示したのが表 10 である。そのうち両データに共通して示されており、かつ男性のほうが女性よりも使用率が高いものを太字で示す。また、それらの音変化の例を(16)に示す。

表 10 日常的な音変化以外の使用率上位 10 項目（枠内上：発話文数、下：使用率（%））

		ai →ee	V る →V φ	oi →ee	てしまう →ちまう	ていう →つう	語頭ん →φん	φ →ー	～は →～ぁ	ておる →とる	ui →ii
少年 マンガ データ	女性	19	10	7	7	3	7	1	0	9	1
		0.89	0.31	0.22	0.22	0.09	0.22	0.03	0.00	0.28	0.03
	男性	406	96	42	35	33	19	19	20	10	12
		4.44	1.05	0.46	0.38	0.36	0.21	0.21	0.22	0.11	0.13
	全 12520 発話	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
		0.00	0.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
少女 マンガ データ	女性	118	76	55	15	11	9	20	12	13	12
		0.60	0.39	0.28	0.08	0.06	0.05	0.10	0.06	0.07	0.06
	男性	958	200	114	107	98	58	32	32	29	11
		4.05	0.84	0.48	0.45	0.41	0.24	0.14	0.14	0.12	0.05
	全 43378 発話	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		9.09	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	総 計	425	107	49	42	36	26	20	20	19	13
		3.39	0.85	0.39	0.34	0.29	0.21	0.16	0.16	0.15	0.10

(16) 表 11 に示された音変化（例文中の下線が音変化の部分）

ai	→	ee	例：そんなもん <u>ねー</u> よ。
oi	→	ee	例：うわ、 <u>すげー</u> ！
ui	→	ii	例：わり <u>ー</u> 、遅刻した。
V る	→	V φ	例：何 <u>すん</u> だよ？
ていう	→	つう	例： <u>つう</u> か、今日、あついね。
φ	→	ー	例：手 <u>え</u> 貸して。

表 10 を見ると、両データともに、男性のほうに女性よりも使用率の高い音変化として、長母音化が共通している（表 10 網かけ）。例えば、少年マンガデータでは(17)、少女マンガデータでは(18)のような発話が見られた。

(17) 爆豪：こいつもそーだが どれも特に強^{つえ}え “個性” 持ちってわけじゃねんだな
（堀越耕平「僕のヒーローアカデミア」8 号）

(18) 智也：もうトリュフじゃねーじゃん！！ スゲーけどさあ！！
（水野美波「虹色デイズ」1 巻）

長母音化の他に、動詞辞書形の活用語尾「る」の欠落 (V る→V₀)、「ていう」の縮約「つう」が見られる。動詞辞書形の活用語尾「る」の欠落は、(19)(20)のような発話で見られた。

(19) 風子：ゾ…ゾンビだああ！！

アンディ：つのヤロォ あんな…腐った連中と一緒にすんじゃねえ

(戸塚慶文「アンデッド アンラック」8号)

(20) すず：もういい！

風太：なんで怒んだよー？

すず：別に怒ってなんかないわよ！

(吉田秋生「海街 diary」5巻)

(19)は少年マンガデータにおける例である。初対面の「風子」にゾンビ呼ばわりされた「アンディ」が反論をする場面であり、「するんじゃ」を「すんじゃ」と発話している。「ヤロォ」「連中」といった語彙から、強い反論であることがうかがえる。(20)は少女マンガデータにおける例である。友人関係の中学生2人の会話の場面で、「すず」が怒っていることに納得いかず指摘する中で「怒るんだ」を「怒んだ」と発話している。この他にも、動詞辞書形の活用語尾「る」の欠落は、納得いかない他者の言動に対して指摘したり反論したりする場面で使われる傾向にあった。

「ていう」の縮約「つう」は(21)(22)のような発話で見られた。(21)は少年マンガデータにおける例であり、人類を石化させる光線に対抗すべく、少年たちが話し合う場面である。(19)(20)と同様に、相手(「千空」)の考えに納得いかないことを指摘する中で使われている。ただ、「つう」は活用語尾「る」の欠落ほど同様の場面で使われていたわけではなく、多くは「つうか」の形で会話の内容を切り替える際に使われていた。(22)は少女マンガデータの例で、高校のクラスメイト動詞の会話である。内容を切り替える時の「つうか」は、基本的に高校生などの若者によって、私的な会話場面で使用されていた。

(21) 龍水：戻るのか 島に！？

千空：あゝ あ

クロム：いや 逆にヤベーだろ この島まるごと石化光線されるつうのによ

(稲垣理一郎・Boichi「Dr. STONE」1号)

(22) 風早：…つーか うちとけてんじゃん！ よかったね

爽子：……か……風早くんのおかげだよ～……

(咲坂伊緒「君に届け」1巻)

音変化は「ヤンキー語」(秋月 2013)、「幼児語」(岡崎・南 2011)、「若者言葉」(金水 2011)の特徴とされる。あるいは、金水(2003:207)が役割語の要素とする「なまり」に当たる。このうち、長母音化は「ヤンキー語」の特徴とされる(秋月 2013)。動詞辞書形の活用語尾「る」の欠落は、納得いかない相手の言動への指摘や反論で使われており、程度の差こそあれ敵対する発話で使われている点で「ヤンキー語」に近い言葉づかいだと思われる。「ていう」の縮約「つう」は、主に若者が私的な会話で使っていた点で「若者言葉」だと思われる。

したがって、両データで女性よりも男性が多く使っていた音変化は、多くが「ヤンキー語」の特徴となるものである。両データとも表10の10項目中5項目がそれにあたり、5項目を合わせた使用率は、少年マンガデータでは女性が1.18%(38発話)、男性が6.29%(575発話)、少女マンガデータでは女性が1.17%(231発話)、男性が5.71%(1352発話)であった。このことから、両データの共通点として、「ヤンキー語」の音変化、すなわちぞんざいさと結びつく音変化が、女性よりも男性に多く使用されている。ただし、「つう」のように、「ヤ

ンキー語」ではない音変化も見られた。

以上、音変化に注目して両データの言葉づかいの特徴を分析した。そして、次の共通点と相違点がわかった。

共通点④ 両データとも、女性より男性のほうがぞんざいさと結びつくような音変化の使用率が高い。

相違点⑥ 少女マンガデータでは、少年マンガデータよりも日常的な音変化の使用率が高い。

3. 5 ぞんざいな語彙

両データでぞんざいな語彙が使われた発話文数を集計し、表 11 のように示された。両データの共通点として、女性よりも男性の使用率が高い（表 11 網かけ）。また、その差は少年マンガデータのほうが大きい。

表 11 ぞんざいな語彙の発話文数と使用率（％）

		発話文数	使用率（％）
少年マンガデータ 全12520 発話	女性	117	3.63
	男性	991	10.83
	不明	23	15.75
	総計	1131	9.03
少女マンガデータ 全43378 発話	女性	702	3.57
	男性	1644	6.94
	不明	0	0.00
	総計	2346	5.41

次に、各データで使用率が高い 10 項目を調べたところ、表 12 のように示された。多くは女性よりも男性の使用率が高いが、「あんた」は女性のほうが高い。両データとも、対称詞として男性は「おまえ」、女性は「あんた」を使う傾向にあると思われる。その他にも「ばか」「あほ」は男女差が比較的小さい。以上の語彙も含め、両データに共通して、人を罵るために使える語彙が多く使用されている（表 12 網かけ）。

また、10 項目中 7 項目が両データで共通している。各データのみで示された 3 項目は、少年マンガデータが「てめえ」「やがる」「ども」、少女マンガデータが「くう」「あほ」「でかい」である（表 12 太字）。少年マンガデータの 3 項目は、以下のような発話に見られた。

(23) 太陽：六美が嫌がってるんだ 二度と近付くな

鳩田：フフ…そうか… てめえこそ気安く僕の六美に触んじゃねえええ`え`え`
(権平ひつじ「夜桜さんちの大作戦」2 号)

(24) デンジ：11 時まで歩かせやがって… ……これでわかった あいつら 俺を守って
んじゃねえ 俺を餌にしてた

(藤本タツキ「チェンソーマン」10 号)

(25) 漏瑚：^{わし}儂らは今の人間共とは違うのだ 死すら恐れず目的のために裏表のない道を歩む それが偽物共にはない呪いの真髄だ

(芥見下々「呪術廻戦」10 号)

(23)は「六美」の旦那である「太陽」とストーカーである「鳩田」が対立する場面である。「鳩田」が「太陽」のことを「てめえ」と呼んでいる。(24)では、自身を長時間歩かせると

表 12 使用率上位のぞんざいな語彙（枠内上：発話文数、下：使用率（%））

		おまえ	やつ	こいつ	あいつ	てめえ	あんた	ばか	くそ	やがる	ども
少年 マンガ データ	女性	18	12	8	12	0	31	9	3	3	1
		0.56	0.37	0.25	0.37	0.00	0.96	0.28	0.09	0.09	0.03
	男性	376	133	57	52	62	25	34	38	29	22
		4.11	1.45	0.62	0.57	0.68	0.27	0.37	0.42	0.32	0.24
	全	22	1	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	15.07	0.68	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
12520 発話	総計	416	146	65	64	62	56	43	41	32	23
		3.32	1.17	0.52	0.51	0.50	0.45	0.34	0.33	0.26	0.18
		おまえ	あんた	やつ	あいつ	ばか	くう	くそ	こいつ	あほ	でかい
少女 マンガ データ	女性	35	283	56	51	58	17	11	9	20	7
		0.18	1.44	0.28	0.26	0.29	0.09	0.06	0.05	0.10	0.04
	男性	753	53	200	163	80	64	39	37	23	32
		3.16	0.22	0.84	0.68	0.34	0.27	0.16	0.16	0.10	0.13
	全	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	不明	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
43378 発話	総計	788	336	256	214	138	81	50	46	43	39
		1.03	0.55	0.42	0.27	0.16	0.14	0.11	0.09	0.07	0.06

いうことをした「あいつら」の行為を敵視し、「歩かせやがって」と言っている。(25)の「漏瑚」は呪霊であり、人間を軽蔑している。その人間について語る際に、「人間共」「偽物共」と表現している。このように、少年マンガデータに特徴的な3項目は誰かを敵視や軽蔑する場面で対象をぞんざいに扱う語彙であり、日常的に使われるものではない。

少女マンガデータの3項目のうち「くう」「でかい」は、以下のような発話に見られた。

(26) 悟： 界ー うちのクラスのパンケーキ食ったー？

界： いや

悟： 一緒行かねー？

（村田真優「ハニーレモンソーダ」4巻）

(27) 大樹の父： おまえ 背えデカくなったなーっ！

大樹： なっ なに… 突然

大樹の父： いつの間にか こんなにデカになってたんだなー

（咲坂伊緒「ストロボ・エッジ」4巻）

(26)は文化祭での親友同士の会話である。「悟」が「界」に「食ったー？」と聞いている。(27)は親子の会話であり、「大樹の父」が「大樹」の背丈を「デカくなった」と言っている。このように、少女マンガデータに特徴的な「くう」「でかい」は、私的な場面であれば日常的に使用できる語彙である。

少女マンガデータに特徴的であったもう1項目「あほ」は、(28)のような発話に見られた。「あずさ」「貴子」「朔」は仲のいいグループに属する親友同士である。この会話の直前に、同じグループに属する「弘人」の好きな人を暴露してしまい、「あずさ」「貴子」に責められている。

(28) あずさ： ほんとアホ！ アホメガネ！

貴子： メガネわるぞ！

あずさ：クソメガネ！

朔：いいすぎじゃね？

（高野莓「orange」2巻）

ここでは「朔」を罵る形で「アホ」を使っている。「あほ」は相手を罵る語彙という点でぞんざいだが、少年マンガデータの3項目「てめえ」「やがる」「ども」ほどではないと思われる。米川編（2020：26）『日本俗語大辞典』では、「あほ」について「関東の「ばか」に対して、関西の「あほ」は悪気なく親愛表現として」使われるとされている。このことから、(28)では「ほんと」のように標準語の発話で関西弁由来の「あほ」が使われているということになる。小林（2004）は、「共通語」の一部に方言を取り入れるような方言の使い方を「アクセサリー化」と呼び、方言が心理的要素として使われているという。(28)の「あほ」はまさに「アクセサリー化」であり、「ばか」などではなく「あほ」を使うことで単に罵るのではなく「朔」への親愛をも表していると思われる。また、「あずさ」が「クソメガネ」と言い直したところで「朔」が「いいすぎ」と抵抗していることから、「あほ」は少なくとも「くそ」ほどぞんざいではない語彙として使われている。したがって、「あほ」は、単にぞんざいな表現というよりは、親しい関係で日常的に使うことのできる罵り表現だと思われる。

このように、少女マンガデータに特徴的な3項目「くう」「でかい」「あほ」は、私的な場面であれば日常的に使いやすい語彙である。

以上、ぞんざいな語彙に注目して両データの言葉づかいの特徴を分析した。そして、次の共通点と相違点がわかった。

共通点⑤ 両データとも、女性より男性のほうがぞんざいな語彙の使用率が高い。

共通点⑥ 両データとも、ぞんざいな語彙の中でも人を罵る語彙の使用率が高い。

相違点⑥ 少年マンガデータでは、対象をぞんざいに扱うような語彙が特徴的である。一方、少女マンガデータでは、私的な場面であれば日常的に使われる語彙が特徴的である。

4. 考察：少年マンガと少女マンガの見方

ここまで、少年マンガデータと少女マンガデータの言葉づかいの特徴を自称詞、終助詞、スタイル、音変化、ぞんざいな語彙に注目して分析した。それにより、両データの共通点と相違点がわかった。

冒頭でも述べた通り、フィクションに留まらず現実場面においても言葉づかいの工夫が話し手の自己表現に役立つと考え、「ことばと人物像の結びつき」を体系的に分析したいと考えている。本節では、その立場からここまでの分析を踏まえて、「ことばと人物像の結びつき」研究における少年マンガと少女マンガの見方を3つの観点から提案する。

4. 1 性差表現を考慮した見方

1点目に、性差表現の観点からである。自称詞、終助詞、音変化、ぞんざいな語彙の分析によって、以下の5点がわかった。

共通点① 両データとも、女性の「ワタシ」「アタシ」、男性の「オレ」「ボク」が比較的によく使用されている。

共通点② 両データで女性語とされる終助詞の使用率はほとんど変わらない。

共通点④ 両データとも、女性より男性のほうがぞんざいさと結びつくような音変化の使用率が高い。

共通点⑤ 両データとも、女性より男性のほうがぞんざいな語彙の使用率が高い。

相違点① 少年マンガデータでは話し手が男性に偏っており、発話文も男性のものが多。一方、少女マンガデータではそのような男女の偏りがほぼない。

相違点④ 少年マンガデータでは、男性より女性のほうが丁寧体の割合が高い。少女マンガデータでは、男女で同程度に丁寧体が使用されている。

少年マンガデータと少女マンガデータの間で、女性と男性それぞれによく使われる自称詞は変わらなかった (①)。また、女性語とされる終助詞の使用率もほとんど変わらなかった (②)。したがって、少年マンガだから女性語が過剰に使用される、少女マンガだから男性語が過剰に使用される、あるいはそれらの逆といった偏りはないと思われる。

また、ぞんざいな言葉づかいは、両データとも女性より男性によく見られた (④⑤)。日本語社会では、“丁寧な言葉づかいは女性らしい” というイデオロギーが存在する (中村 2021)。ぞんざいな音変化や語彙において男性の使用率が女性より高いという分析結果から、少年マンガや少女マンガではそのようなイデオロギーが反映されている可能性がある。そのイデオロギーが反映される程度に関しても、音変化やぞんざいな語彙に注目した範囲では、少年マンガと少女マンガで偏りはほとんどないと思われる。

ただし、スタイルにおいては、ジャンル間の偏りを考慮した分析が必要だと考えられる。少年マンガデータでは女性のほうが丁寧体を使用する一方で、少女マンガデータでは男女差がほとんどなかった (④)。つまり、女性のほうが丁寧に話し男性は女性ほど丁寧に話さないというイデオロギーが、少年マンガではスタイルにも反映されており、少女マンガでは反映されていない可能性がある。

中村 (2007) によると、「女ことば」のイデオロギーは、実際の女性の言葉づかいではなく、言説によって構築されてきたという。その言説にはフィクションのセリフも含まれる。つまり、①②④⑤④のような女性らしい言葉づかいは、現実の女性の発話を反映しているとは限らない。男性らしい言葉づかい (男性のほうがぞんざいな言葉づかいで話すという分析結果) も同様である。

しかしながら、「ことばと人物像の結びつき」の研究において、女性らしさや男性らしさを表す性差表現は人物像を表す豊かな日本語表現の一部であり、否定的に扱えるものではない。ただし、研究の成果をフィクションに留めることなく、現実場面での自己表現にも応用しようという立場であれば、現実の言葉づかいとの違いを考慮する必要もある。少年マンガと少女マンガでは性差表現が確かに見られ、ジャンル間での偏りはほとんどないと思われる。いずれのジャンルにおいても、女性らしい言葉づかいに関するイデオロギーが反映されていることを念頭においた分析が必要である。特に少年マンガにはスタイルにおいてもイデオロギーの反映が見られる点で、より一層注意が必要だろう。

また、少年マンガデータでは分析可能な話し手の数や発話文数が男性に偏っているということもわかった (①)。そのため、分析で得た結果が女性の言葉づかいの全体像をどの程度カバーするものなのかという点でも、より深く考慮する必要があると思われる。

4. 2 ヴァーチャルな言葉づかいを考慮した見方

2 点目に、ヴァーチャルな言葉づかいの観点からである。自称詞、終助詞、ぞんざいな語彙の分析によって、以下の 3 点がわかった。

相違点② 少年マンガデータでは、少女マンガデータよりも役割語度の高い自称詞が使用されている。

相違点③ 少年マンガデータでは、少女マンガデータよりも役割語度の高い終助詞のバリエーションが多く見られる。

相違点⑥ 少年マンガデータでは、対象をぞんざいに扱うような語彙が特徴的である。一方、少女マンガデータでは、私的な場面であれば日常的に使われる語彙が特徴的である。

少年マンガデータでは、役割語度の高い自称詞や終助詞が使われていた (②③)。そのような言葉づかいは少女マンガデータでもある程度見られたが、少年マンガデータほどではなかった。また、対象をぞんざいに扱う語彙 (「てめえ」「やがる」など) に関しても、少年マンガデータに特徴的に見られた (⑥)。

金水 (2003 : vi) によると、役割語は「現実の日本語とは別の、でも確かに存在する日本語」という意味で、“ヴァーチャル日本語”である。筆者は、すべての日本語は多かれ少なかれ人物像と結びつくと考えている。その「すべての日本語」は、現実の日本語と大幅に乖離するものから現実で何の違和感もなく使われるものまで様々である。その連続性を表すのが役割語度だと思われる。その意味では、役割語度の高い自称詞や終助詞はまさにヴァーチャル日本語である。また、対象をぞんざいに扱うような語彙も、特定の場面で使用されることが多く、常用されれば違和感があるという点ではヴァーチャル日本語である。

つまり、少年マンガを言語資料とする場合、ヴァーチャルな言葉づかいが見られやすく、分析の結果が現実の日本語と乖離する可能性がある。分析の成果を現実場面での自己表現に活かそうとする場合、少年マンガでは少女マンガよりもヴァーチャルな言葉づかいが表れやすいということは、十分考慮して分析する必要がある。

ただし、現実の日本語からの乖離と現実のコミュニケーションからの乖離は別物である。現実のコミュニケーションでは、あえてヴァーチャルな言葉づかいで話すことも考えられる。例えば、親密な間柄でふざけて自称詞「ワイ」を使うことや、「てめえ」を使うことも考えられる。そのため、ヴァーチャルな言葉づかいがどのような人物像と結びつくのかという分析にも十分な価値がある。大切にしたいのは、現実の言葉づかいとどの程度乖離しているのかという見方であり、ヴァーチャルな言葉づかいを排除することではない。

なお、少年マンガデータに収録された作品には、魔法や霊的存在、特殊能力など、ファンタジーが多く見られた。その点でも、少年マンガにヴァーチャルな言葉づかいが表れやすいことは考慮すべきである。

4. 3 場面を考慮した見方

3 点目に、場面の観点からである。スタイル、ぞんざいな語彙の分析で 2 点がわかった。

共通点③ 両データとも、8 割以上の使用率で、同程度に非丁寧体が使われている。

共通点⑥ 両データとも、ぞんざいな語彙の中でも人を罵る語彙の使用率が高い。

少年マンガデータと少女マンガデータのどちらにおいても、8 割以上で非丁寧体が使われており、丁寧体は 1 割ほどであった (③)。また、「おまえ」「あいつ」「ばか」などの人を罵る語彙の使用率が両データとも高かった (⑥)。では、この 2 点において、両データのスタイルやぞんざいな語彙使用は同じと言えるだろうか。(29)は少年マンガデータ、(30)は少女マンガデータにおける発話である。

(29) ガデロア：オレの名はガデロア テメエはアー！！？

ユノ：オマエみたいなヤツに…教える名はない！！

(田畠裕基「ブラッククロージャー」8 号)

(30) 夏樹：んー もらったティッシュがカラオケので…

恵一：宣伝で配ってたんだ！！

智也：ははっ だったら相手 お前の事覚えてねーかもな 気にもしてねーよ

(水野美波「虹色デイズ」1巻)

(29)は「ガデロア」と「ユノ」の戦闘場面である。2人は初対面であるため、「ガデロア」が自己紹介をしている。それに対して「ユノ」は、「オマエ」「ヤツ」のように「ガデロア」を罵る語彙を使っている。また、「ユノ」は他の場面では適切に丁寧体を使っているが、(29)は戦闘場面であるため、初対面の相手であっても非丁寧体を使っている。

(30)の3名は親友同士である。「夏樹」が一目惚れしたティッシュ配りの女性について話しており、「智也」が「夏樹」のことを「お前」と呼んでいる。これは「ははっ」と笑い声が入っているように、親しい間柄でのカジュアルな会話である。

(29)(30)のいずれも非丁寧体で人を罵る語彙を使っているが、その目的が異なる。(29)では敵対する相手と心理的距離を引き離すために使われており、(30)では親しい相手と心理的距離を近づけるために使われている。

このように、少年マンガデータと少女マンガデータでは、数値の上では非丁寧体や人を罵る語彙の使用率が高い点で似ているが、その目的が異なる。その理由は、少年マンガでは戦闘場面など敵対する場面が多く描かれ、少女マンガでは日常生活に根ざした場面が多く描かれるためだと思われる。実際、少年マンガデータに収録した23作品中15作品は戦闘場面を含む作品であった。一方で、少女マンガデータに収録した9作品には戦闘場面がほとんどなかった(ケンカの場面がいくつか描かれる程度)。また、少女マンガデータの9作品中6作品はいわゆる「学園もの」と呼ばれる高校生の友情や恋愛を描いたものであった。

このように、少年マンガでは戦闘場面が、少女マンガでは日常に根ざした場面がそれぞれ比較的多く描かれることを考慮した分析が望ましいと考える。同様のことは、音変化やぞんざいな語彙の分析の結果わかった以下の2点からも言える。

相違点⑤ 少女マンガデータでは、少年マンガデータよりも日常的な音変化の使用率が高い。

相違点⑥ 少年マンガデータでは、対象をぞんざいに扱うような語彙が特徴的である。一方、少女マンガデータでは、私的な場面であれば日常的に使われる語彙が特徴的である。

少女マンガデータでは、音変化とぞんざいな語彙において、少年マンガデータと比べて日常的によく使われる表現が特徴的であった(⑤⑥)。これもまた、日常に根ざした場面の中で、相手との心理的距離を縮めようとして使われている可能性がある。音変化やぞんざいな語彙は、心理的距離を引き離すために使われれば《下品》《格が高い》などの人物像と結びつくが、縮めるために使われれば《フレンドリー》などの人物像と結びつきうる。まったく異なる人物像と結びつく以上、文脈に立ち返り、場面を考慮する必要がある。

以上のように、描かれる場面に考慮した分析が必要であることが再認識できた。もちろん、少年マンガにも戦闘場面がまったくないものもあり、少女マンガにも戦闘場面が描かれることもあるだろう。その点で、先入観は持たずに分析すべきである。

6. おわりに

本稿では、日本語話者の自己表現に活かすための「ことばと人物像の結びつき」の分析の手掛かりとするために、少年マンガデータと少女マンガデータを概略的に分析し、各データ

の言葉づかいの大まかな特徴を示した。そして、少年マンガと少女マンガを言語資料とする場合の見方を、以下のように提案した。

少年マンガの見方

- 1 自称詞、終助詞、スタイル、音変化、ぞんざいな語彙において、性差に関するイデオロギーが反映されている可能性を考慮する。
- 2 自称詞、終助詞、ぞんざいな語彙において、現実の日本語との乖離を考慮する。
- 3 戦闘場面が比較的多く描かれることなど、場面を考慮する。

少女マンガの見方

- 1 自称詞、終助詞、音変化、ぞんざいな語彙において、性差に関するイデオロギーが反映されている可能性を考慮する。
- 2 日常に根ざした場面が比較的多く描かれることなど、場面を考慮する。

以上を現段階の指針として、「ことばと人物像の結びつき」研究を進めていきたい。そして、その成果を日本語話者の自己表現に活かすことを目指す。

なお、上記は本研究のデータのうえで述べたものであり、提案の域を出ない。今後、より多様な作品を加えてデータを拡張していく必要がある。また、現代小説と少女マンガの比較、他のジャンルとの比較により、本稿の妥当性を検証していく。

謝 辞

本研究は、中部学院大学・中部学院大学短期大学部特別研究費（2024～2025 年度，研究代表者 西澤萌希）による助成を受けた。

文 献

- 秋月高太郎（2013）「続・ウルトラマンの言語学」尚絅学院大学紀要, 62 巻, pp.29-42.
- 大和田智文（2010）「若者における一人称の使用の様相とその機能的意味」関西福祉大学社会福祉学部研究紀要, 13 巻, pp.77-86.
- 岡崎友子・南侑里（2011）「役割語としての「幼児語」とその周辺」金水敏編『役割語研究の展開』pp.195-212, くろしお出版.
- 小嶋玲子（2017）「女子大学生の自称詞使用の変化ー2001 年と 2011 年の調査結果を比較してー」桜花学園大学保育学部研究紀要, 16 巻, pp.65-77.
- 金水敏（2003）『ヴァーチャル日本語 役割語の謎』岩波書店.
- 金水敏（2011）「現代日本語の役割語と発話キャラクタ」金水敏編『役割語研究の展開』pp.7-16, くろしお出版.
- 金水敏（2021）「ポピュラーカルチャーのことば」日本語学, 40 号 1 巻, pp.4-13.
- 小林隆（2004）「アクセサリーとしての現代方言」社会言語科学, 7 巻 1 号, pp.105-107.
- 田窪行則（1997）「日本語の人称表現」田窪行則編『視点と言語行動』pp.13-44, くろしお出版.
- 田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代 ニセ関西弁から龍馬語まで』岩波書店.
- 中村桃子（2007）『「女ことば」はつくられる』ひつじ書房.
- 中村桃子（2020）『新敬語「マジヤバいっす」 社会言語学の視点から』白澤社.
- 中村桃子（2021）『「自分らしさ」と日本語』筑摩書房.
- 西澤萌希（2025a）「男性の「ワタシ」常用が表す人物像ーフィクションにおける「ワタシ」キャラと「オレ」キャラの接点を踏まえてー」ことば, 46 巻, pp.37-54.

渡邊友香（2016）「小説に見られる女性キャラクターの会話スタイルの変化ー女性的表現は今後衰退するのー」金水敏編『役割語・キャラクター言語研究国際ワークショップ 2015 報告論集』pp.118-128, 私家版.

関連 URL

西澤萌希（2025b）「言語資料のジャンルを考慮した言葉づかひの分析ー少年マンガ、現代小説の見方の提案ー」言語資源ワークショップ 2025 発表論文, <https://clrd.ninjal.ac.jp/lrw/lrw2025/o07.pdf>

辞書

金水敏編（2014）『〈役割語〉小辞典』研究社.

米川明彦編（2020）『日本俗語大辞典 新装版』東京堂出版.